

社会福祉法人 中部盲導犬協会

令和3年度 事業報告書

〔概要〕

「中部盲導犬協会の発展と永続のために……」を目標に事業展開した。

盲導犬育成事業部

〔基本事業〕

1. 盲導犬の育成強化 ……別紙1
愛知県等の助成により、盲導犬5頭を育成貸与した。
2. 飼育費の支給
月額4,900円を上限として当協会から貸与している愛知県、名古屋市内の盲導犬使用者に対し補助した。
3. 盲導犬訓練士等の養成
実習生を来年度の盲導犬訓練士資格に向けて教育した。
4. 盲導犬に適する繁殖と子犬の作出の研究事業
繁殖センターの運用を図り、優秀な子犬の育成に努めた。
5. 普及啓発事業 ……別紙2
＜目標＞
 - ① 視覚障害者および一般市民に対して、身体障害者補助犬である盲導犬の役割を正確に知らせた。
 - ② 一般社団法人中部盲導犬協会支援センターと連携した。
 - 1) 盲導犬のデモンストレーションの実施
視覚障害者団体等に盲導犬貸与についての説明や体験歩行などを実施し、盲導犬貸与の促進を図った。

2) 盲導犬体験

視覚障害者の盲導犬に対する、知識を深めるために1日体験会を実施した。

3) チャリティー

恒例のゴルフ大会はコロナ感染症拡大防止のため開催出来なかった。

4) 見学会の開催

個人や団体に対し、盲導犬への正しい理解と接し方などを啓発した。

5) イベント参加

コロナ禍の中、開催されたイベントに参加して、盲導犬の理解を深めると共に動物愛護についての啓発を行なった。

6) 講師派遣

小・中学校、高校などへ出向き、総合学習などの授業を通して盲導犬への理解を深めた。

7) パンフレットの配布

盲導犬事業に対して幅広い市民の理解と協力が得られるように、視覚障害者関係団体や見学者等に配布した。

8) 協会ホームページの活用

インターネットやSNSの内容の充実を図り、盲導犬に対する理解と支援の輪を広げた。

9) 機関紙「ニューハーネス」の発行

協会事業の周知と情報開示を図った。

6. 職員研修会の実施

全国盲導犬施設連合会の研修をはじめ障害者関連の施設や盲導犬訓練設など他協会にも派遣し職員の資質向上を図った。

7. ボランティアの強化

恒例の高校生サマーボランティアや中学生ボランティア体験は、コロナ感染症拡大防止のため受け入れが出来なかった。

8. 運営基盤の強化安定

1) 盲導犬育成の支援団体の拡大

各法人、団体、組合、学校等からより多くのご支援が得られるよう努めた。

2) 会費会員について

法人・個人に盲導犬育成事業についての理解を深めた。

3) リサイクル活動の促進

- ・書き損じハガキの回収運動

書き損じハガキを回収して運営資金や通信費として活用した。

- ・アルミ缶回収

アルミ缶回収運動の輪を広げ、盲導犬育成に役立てた。

〔連携事業〕

1. 一般社団法人中部盲導犬支援センターと連携した。

2. あけびの会との連携

恒例の盲導犬使用者とのハイキング・慰霊祭・研修会等をコロナ感染症拡大防止のため実施できなかった。

3. 豊田東名ライオンズクラブ「中部盲導犬協会後援会」の協賛事業

豊田東名ライオンズクラブを中心とした後援会の協賛事業としての、盲導犬チャリティーゴルフ大会に参加した。

4. 全国盲導犬施設連合会との連帯

連合会が実施する事業に参加し協力した。

5. 愛知視覚障害者援護促進協議会との連携

視覚障害者援護講習会等に講師派遣するとともに共催講習会も実施した。

〔重点事業〕

- ・岐阜大学との連携

盲導犬の人工授精に関する研究の一環で毎年凍結精液を作成していたが、コロナのため岐阜大学教授の移動規制のため作成出来なかった。

- ・財政基盤の安定

街頭普及活動を支援センターと連携し、普及啓発活動を実施した。

(名鉄百貨店前・イオン新茶屋及び尾張地区・三河地区等)

福祉事業部

〔基本事業〕

- ・ 居宅介護（ホームヘルプ）事業
静岡拠点の蒲原事業所を廃止し、浜松事業所を開設した。
……別紙 3
- ・ 特別養護老人ホーム 翠華の里
盲導犬及び家族同様のペット犬と一緒に入居可能な特別養護老人ホームの運営。（新城市湯谷温泉地区・定員 100 名）……別紙 4

以上

盲導犬育成報告

別紙1

犬No.	パピー ウォーカー委託中	基本訓練	誘導訓練	訓練終了
1			→	愛知県貸与
2			→	訓練中
3			→	キャリアチェンジ
4			→	PR犬
5			→	繁殖犬
6			→	岐阜県貸与
7			→	三重県貸与
8			→	愛知県貸与
9			→	キャリアチェンジ
10			→	訓練中
11			→	訓練中
12			→	PR犬
13			→	訓練中
14			→	繁殖犬
15			→	訓練中
16			→	キャリアチェンジ
17			→	訓練中
18			→	三重県貸与
19			→	PR犬
20			→	キャリアチェンジ
21			→	キャリアチェンジ
22			→	キャリアチェンジ
23			→	繁殖犬
24			→	訓練中
25			→	繁殖犬
26			→	キャリアチェンジ
27			→	キャリアチェンジ

盲導犬育成報告

別紙1

犬No.	パピー ウォーカー委託中	基本訓練	誘導訓練	訓練終了
28			→	繁殖犬
29			→	キャリアチェンジ
30			→	キャリアチェンジ
31			→	訓練中
32			→	訓練中
33			→	訓練中
34			→	訓練中

令和4年3月末日現在保有犬

盲導犬	41頭
訓練犬	11頭
繁殖犬	21頭
PR犬	4頭
パピーウォーカー委託中	21頭
合計	98頭

繁殖事業

1. 交配

件数 4件

2. 出産

件数 4件

産子数 30頭（内、死産あるいは他協会への分配有り）

3. パピーウォーカー関連

委託 21家庭

しつけ教室 22回開催

4. 繁殖犬の引退と導入

- ・繁殖雌犬 1頭引退
- ・繁殖雄犬 1頭引退
- ・繁殖雌犬 5頭導入
- ・繁殖雄犬 1頭導入
- ・現在、繁殖雄犬 8頭（内、AGBN 委託犬 1頭）と繁殖雌犬 13頭（内、AGBN 委託犬 0頭）で合計 21頭を所有

5. 凍結精液の作成(岐阜大学との連携)

なし 次年度 3回を予定

普及啓発事業

事業名	内容・実施数
講師派遣	小・中学校、高校などへ出向き、盲導犬の授業を行う。 (60～90分) 盲導犬への正しい理解と街中で出会った際の接し方などを啓発する。 啓発件数 45件 講師料総額 ¥689,820
見学会	4階大ホールにて個人・団体に向けて実施。定員100名。 盲導犬への正しい理解と接し方などを啓発する。 約啓発人数 310名 参加費総額 ¥48,800
イベント	各種イベントやお祭り、ショッピングモール等で募金活動・チャリティグッズ販売・デモンストレーション等を実施し、盲導犬の正しい理解を呼びかける。 26件
※支援センターと連帯 街頭普及活動	街頭普及活動 (名鉄百貨店前、東山公園前、大須商店、各店舗など) 885回
友の会	*ボランティア育成 128名 新規 39名
会員	特別会員 33名(内、新規会員：9名) 普通会員 289名(内、新規会員：23名)
ボランティア養成	あけびの会・学生ボランティア講習会 1件 他はコロナウイルス対策のため実地なし 例年であれば以下の通り実地 生活支援連携 高校生夏期サマーボランティア受入 中学生ボランティア体験受入
自動販売機	新規設置：1台 継続設置：42台 計43台
学会・研修会	ジャパンセミナー(オンライン)
機関誌「ニューハーネス」	3,000部(墨字版)×1回(9月発行)、 50部(音声ファイル版)×1回(9月発行)

身体介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R3.4	159	250.5	7
5	154	247	7
6	136	229	6
7	138	233	6
8	135	227.5	6
9	137	231.5	6
10	130	223.5	6
11	111	197	6
12	131	215	6
R4.1	128	221	6
2	131	234	6
3	149	240	7
年度計	1639	3134	75

重度訪問介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R2.4	157	357.5	7
5	150	291.5	5
6	155	335	7
7	169	392.5	8
8	156	357	6
9	147	340.5	6
10	162	389.5	7
11	161	393.5	8
12	164	373	9
R3.1	157	380.5	6
2	144	349.5	7
3	160	369	7
年度計	1882	3844.5	83

移動支援

R3.4	1	1	1
5	1	1	1
6	1	1	1
7	1	1	1
8	1	1	1
9	1	1	1
10	1	1	1
11	1	1	1
12	1	1	1
R4.1	1	1	1
2	1	1	1
3	1	1	1
年度計	12	12	12

訪問介護事業所 サフィー

身体介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R3.4	0	0	0
5	0	0	0
6	1	1	1
7	13	13	2
8	22	26.5	4
9	25	31	4
10	35	42	6
11	31	41	6
12	44	56	6
R4.1	38	49	6
2	37	47.5	6
3	43	55	7
年度計	289	366	48

重度訪問介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R3.4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7	0	0	0
8	0	0	0
9	17	170	1
10	21	210	1
11	22	220	1
12	19	181.5	1
R4.1	10	100	1
2	11	110	1
3	23	223.5	1
年度計	123	1215	7

移動支援

R3.4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7	0	0	0
8	0	0	0
9	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
R4.1	0	0	0
2	1	4	1
3	0	0	0
年度計	1	4	1

※職員 専従 2名(介護福祉士)
 非専従 1名(介護福祉士)
 ※利用状況 契約者 8名(居宅介護・重度訪問介護8名※内重度訪問介護のみ1名)
 (※内移動支援利用1名)
 男性5名
 女性3名
 ※障害支援区分
 区分2 4名
 区分3 3名
 区分4 1名

訪問介護事業所 サフィー 老人
身体・生活介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R3.4	20	8	1
5	19	6	1
6	31	10	1
7	31	10	1
8	23	7	1
9	34	11	1
10	32	10	1
11	35	11	1
12	31	10	1
R4.1	23	7	1
2	27	9	1
3	33	12	2
年度計	339	111	13

※職員 専従 2名(介護福祉士)
 非専従 1名(介護福祉士)
 ※利用状況 契約者 2名
 女性 2名
 ※介護度 要介護1
 要介護4

特別養護老人ホーム運営事業

高齢化した際に盲導犬及び家族同様のペット犬と一緒に入居可能な特別養護老人ホームの運営。(新城市湯谷温泉地区・ユニット型・定員 100 名)

平成 31 年 4 月 1 日より事業開始。

1. 事業所名 特別養護老人ホーム翠華の里
2. 場所 新城市豊岡字田ノ島 52 番 9
3. 指定年月日 平成 31 年 3 月 29 日 (事業開始 4 月 1 日)
4. 指定期間 東三河広域連合
5. 対象者
 - ・ 要介護 3 以上の認定を受けた要介護者
 - ・ 要介護 1 及び 2 の認定を受け、かつ保険者等が特例(独居・認知症など)入居を認めた要介護者

6. 従事者

職種	R3. 4. 1		採用		退職		R4. 3. 31	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1						1	
生活相談員	1						1	
介護支援専門員	1	1					2	
介護職員	40	9	4	1	5	3	39	7
看護師	1	6	1			3	2	3
機能訓練指導員	1						1	
管理栄養士	1						1	
事務員	1						1	
業務員		3						4
業務員 (宿直)		3						3
家事支援員		3						3
合計	47	25	5	1	5	6	48	20
	72		6		11		68	

※R4. 3. 31 在職者数は 3. 31 付で退職及び 4. 1 付で異動予定の職員は含まない。

7. 施設理念

人を愛し
地に感謝し
天に祈る

8. 施設行動指針

明るい笑顔で交わす挨拶
来た道 行く道 すべてが大切な人生
ルール守って楽しい毎日
地域と共栄 翠華の里

9. 事業内容

(1) ケア全般

施設の健全な環境継続に努め、利用者の人間性を尊重し明るく楽しい施設にする
と共に、個別ニーズを把握し、より質の高い介護サービスの提供を図った。

ユニットケアの効果的な実践のため、ハードの意味をしっかりと理解し、ソフト
面においても、ユニットの固定配置の必要性と継続を常に意識し、なじみの関係を
構築した。

(2) 生活相談

利用者の生活歴や心身状況を適切に把握し、認知症等で訴えが困難な利用者の課
題についても迅速に対応できるよう努めた。

個別的な声かけの工夫に努め、言葉だけでなく常に笑顔で優しい対応をし、心に
響くコミュニケーションがとれるよう援助した。

家族とのつながりを大切にしたい支援に努めた。

生活相談は入居から退居に至る過程すべてのトータルマネジメントであるとい
う認識のもと、本人を核とし、施設における利用者の生活全般及び、本人を取り巻
く家族の精神面等を支援した。

(3) 連絡調整

各スタッフの価値観をすり合わせながら、多職種連携を円滑に行い、利用者の状
態変化については、それに至る経過も含め迅速に家族等に報告した上で、対応を適
切に行えるよう努めた。また、利用者や家族が今後の生活を円滑に進めることが出
来るよう、医療機関等と連携のもと、予見も含めた上で必要な対応策や情報の提示
を行い、選択、決定時のサポートに努めた。

入居後も、面会にとどまらず、あらゆる面で関わりを持ってもらうことで精神的
なつながりが継続され、利用者と家族がともに豊かに生き続けることができるよう
支援した。

(4) ケアマネジメント

利用者の心身機能維持向上に向け、計画を立案し実施経過の確認に努めた。

多職種連携のもと、必要に応じてプラン変更を行い実践することで、利用者の自律性の向上につなげた。

(5) リスクマネジメント

自立支援や危険の予見、回避対策等を常に念頭に置き、利用者の支援に努めた。またリスクマネジメント実践の意義を、全職員に浸透させるよう推進し、事故データやヒヤリハット報告の解析結果を実践に活かした。

見守り支援システム等の活用等にて、予見に基づくケアを展開した。

(6) 教養娯楽

余暇活動の必要性を重んじ、ユニットごとや全体での催し等を計画,実行した。

含めて、個別の余暇活動の支援も重んじて支援した。

地域社会とのふれあいを大切にするため、外出の機会を定期的に設けた。

(7) 身体,精神ケア

① 食事,水分摂取等に関するケア

管理栄養士と連絡調整し、利用者にとって食べやすい工夫をし、必要に応じて自助具などの活用を行った。また、利用者より希望があれば疾患の有無関わらず、出来るだけ希望に沿える対応をした。

② 排泄に関するケア

利用開始後の排泄パターンの把握と尿量測定の上、排泄アイテムを選定し、個々の利用者に合わせた排泄ケアに努めた。

排泄支援をまわりに意識させないよう、排泄ケア時はトートバッグ等の使用にて訪室対応するなど、尊厳を意識したケアを実践した。

シャワーボトルやホットタオルを使用し、陰部,臀部の皮膚疾患予防,改善に努めた。

③ 入浴,清拭等に関するケア

入浴準備,誘導から入浴終了,居室誘導までの一連の対応は、マンツーマンで行うことを基本とし、個々の身体状況や好みに合わせた入浴対応を実践した。

清潔保持と爽快感(気分転換)を味わってもらうよう努めた。

入浴が出来ない時(体調不良等)は、清拭,着替えを行うことで清潔保持に努め、実施後は保温に努めた。

④ 洗面,口腔清潔,整容,更衣に関するケア

衛生面に十分留意し、個々のニーズに沿ったケアを行った。

清潔保持に心がけ、下着,靴下の交換、身だしなみを整え、気候に応じた衣類の調節等に努めた。

⑤ 基本動作介助

個々の意志を尊重し、現存機能を活かした介助に努め、福祉用具使用上の工夫に努めた。

⑥ 健康に関するケア

個々のバイタルサインの把握と介護士間および看護師との連絡調整を密にし、体調管理に努めた。

また、快適に過ごせるような室内温湿度に配慮した。

⑦ 心理,社会面等に関するケア

個人を尊重した生活の援助,行動障害の緩和, 身体拘束軽減等の取り組みに重点を置いた。

ゆったり過ごしてもらえる心身のケアをし、趣味や個々の持っている現存機能を引き出す援助を展開した。

(8) 医療,看護ケア

利用者の実態を的確に把握し、嘱託医師と常に連絡をとり、疾病の発生,悪化予防に努めた。

新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症等について、発生予防に努めると共に、マニュアルの遵守及び都度のバージョンアップに努め、蔓延予防に留意した。

口腔ケアの徹底により、肺炎予防と口腔内の清潔保持に努めた。

介護士と協力し、排泄の自立を促がし、陰部、臀部の皮膚疾患予防に努めた。

利用者、家族の意向を早期に確認の上、希望がある場合にはそれに沿い、看取りについての取り組みを可能な範囲で実践した。

(9) 機能訓練

各入居者,家族の意向に沿った機能訓練計画を作成し、廃用性の機能低下予防のため離床に心がけ、現存機能の維持,向上に努めた。生活の中での機能訓練を常に意識し、介護,看護協同のもとに展開した。また、メリハリのきいた生活リズムの確立に努めた。

日常生活の中での余暇活動を活かし、楽しんで機能訓練ができるよう支援した。

(10) 栄養

栄養については、栄養ケアマネジメントを通して、各部署と連携を図り、個々の利用者の状態把握をし、適切な形態の食事から栄養をとる事ができる様に努めた。何より、利用者が満足して食事を摂ることかできることを最優先した。

衛生面に留意し、食中毒等の発生予防策を講じた。

(11) 職員研修

施設内,施設外研修を通じて、職員の資質向上を図り、利用者の立場にたったサービス提供が行えるような体制作りを努めた。キャリアパス制度のもと、職域における目標を明確化した。その上で仕事に対するスキルを効率よく高められるようにした。

定期研修を実施し、職員の意識統一とモチベーションアップにつなげ、資質向

上を目指した。

排泄ケアや各種感染症等の勉強会をリモート及び外部講師等を招くなどし行うことで、全体のスキルアップを目指した。

(12) 防災計画

消防署に提出する消防計画を軸に、年2回以上の消防・防災訓練及び炊き出し訓練を実施した。また、地域の防災活動にも積極的に参加し職員の防災意識の向上に努めた。

(13) 地域交流

新型コロナウイルス感染症による活動制限のため、外出を控え同一敷地内の盲導犬関連施設の活用や屋内活動にとどまった。

(14) 各介護保険関係機関との連携

居宅介護支援事業所をはじめ、各居宅、施設サービス機関との連携を密にし、よりよいサービス提供ができるよう努めると共に、安定運営を常に意識した。

(15) 介護機器及び介護ロボット等の有効活用

個々の利用者の心身状態にあった機器選定に努め、効果的なケアの展開を行う。補助金の活用等を推進し、利用者の生活の質の向上と、職員の職場環境のさらなる向上に努めた。

10. 年間行事

- 4月 花見（施設周辺で花見）
- 5月 端午の節句（鯉のぼり飾りつけ、おやつレク）
- 6月 サープの日（ビエン（施設犬）とふれあいをした）
- 7月 七夕（短冊を飾った）
- 8月 納涼祭（入居者のみ参加、露店を出店した）
- 9月 敬老会（行事食を提供し長寿を祝う）
- 10月 運動会（気持ちよく体を動かしリフレッシュ）
- 11月 焼き芋会（山の紅葉を見ながら焼き芋を楽しんだ）
- 12月 クリスマス会（飾り付けをし、手作りおやつを楽しんだ）
- 1月 お正月（書き初め）
- 2月 節分（鬼を退治して一年の健康を願う）
- 3月 ひな祭り（ひな人形を飾り華やかな春を満喫）

【入居状況】

月	入居者数		退居者数 (看取り)	入院者数	在籍者数	稼働率
	男性	女性				
4	2	2	3(2)	7	86	86.6%
5	0	0	1	8	85	85.8%
6	1	0	1	9	85	85.3%
7	2	1	2	7	86	85.5%
8	0	1	3(2)	7	84	85.4%
9	1	1	4(4)	5	82	83.0%
10	0	3	1	5	84	82.6%
11	1	3	1	7	87	84.3%
12	3	1	1(1)	5	90	89.4%
1	1	0	1	8	90	89.3%
2	0	3	0	5	93	91.6%
3	1	2	3(2)	6	93	93.6%
年度計	12	15	21(11)	79	93	93.6%

【要介護度別】令和4年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
男	3	4	10	11	6	34	3.3
女	5	3	21	24	6	59	3.4
計	8	7	31	35	12	93	3.4

【年齢構成別】令和4年3月31日現在

	男	女	計
59歳以下	0	0	0
60～64歳	0	3	3
65～69歳	2	3	5
70～74歳	3	2	5
75～79歳	2	1	3
80～84歳	3	12	15
85～89歳	9	14	23
90～94歳	9	18	27
95～99歳	6	5	11
100歳以上	0	1	1
計	34	59	93

【市町村別】令和4年3月31日現在

		男	女	計
愛知県	新城市	20	37	57
	豊川市	2	7	9
	豊橋市	3	6	9
	設楽町	2	3	5
	東栄町	3	1	4
	豊根村	1	2	3
	岡崎市	1	0	1
静岡県	浜松市天竜区	1	3	4
岐阜県	山県市	1	0	1
計		34	59	93

【施設内研修】

月	テーマ	対象者
4	・倫理・法令遵守について	全職員
5	・グリーンケアについて	全職員
6	・食中毒の発生の予防及びまん延の防止について	全職員
7	・医療連携に必要な知識と技術について	全職員
8	・事故発生予防またはその再発防止について	全職員
9	・非常災害（施設・地域防災）について	全職員
11	・感染症の発生の予防及びまん延の防止について ・高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止について	全職員
12	・看取りについて	全職員
2	・認知症及び認知症ケアについて ・事故の発生等緊急時の対応について	全職員
3	身体拘束等の排除のための取組みについて	全職員

【外部講師研修】（研修数 24 / 参加延べ人数 100 名）

月	テーマ	職種	人数
4	【施設内集合型】 ・床ずれ予防とポジショニング研修	全職員	16
5	【オンライン】 ・ユニットケア：ケアマネとして思うこと	介護支援専門員	1
7	【オンライン】 ・感染対策の基礎&PPE着脱 ・高齢者施設に向けた新型コロナウイルス対策研修会	介護職員 介護職員	4 1
9	【オンライン】 ・知っておきたい食品表示について	管理栄養士	1

10	<p>【オンライン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護施設における安全対策担当者養成研修 ・排泄研修 ・ユニットケア：施設は私たちの仕事場 ・ユニットケア：施設は入居者の暮らしの場 ・ユニットケア：そして、今、施設は <p>【施設外集合型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設従事者向け高齢者虐待防止に関する勉強会 	<p>介護職員</p> <p>介護職員</p> <p>介護職員</p> <p>介護支援専門員</p> <p>介護職員</p> <p>施設長</p>	<p>2</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>
11	<p>【オンライン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新城市介護支援専門員研修 ・介護記録の書き方研修 ・水虫、肥厚爪に対するフットケア処置 ・認知症介護基礎研修（無資格者対象） <p>【施設外集合型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアコーディネーター養成講座 	<p>介護支援専門員</p> <p>生活相談員</p> <p>看護師</p> <p>介護職員</p> <p>事務員</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>6</p> <p>1</p> <p>1</p>
12	<p>【オンライン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護基礎研修（無資格者対象） ・機能訓練の方法などを考える研修会 <p>【施設内集合型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇・虐待について 	<p>介護職員</p> <p>機能訓練指導員</p> <p>全職員</p>	<p>2</p> <p>1</p> <p>26</p>
1	<p>【オンライン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉関係職員基礎研修 ・公正採用選考人権啓発推進員研修会 	<p>介護職員</p> <p>施設長</p>	<p>2</p> <p>1</p>
2	<p>【オンライン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用カーボカウント指導の基礎 ・ハラスメント研修 	<p>管理栄養士</p> <p>施設長</p> <p>介護職員</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>
3	<p>【施設内集合型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理・虐待について 	<p>全職員</p>	<p>25</p>

以上